

震災関連情報

野菜(家庭菜園等)の放射能検査体制を拡充しました

各庁舎など5か所で開催可能に

食品に対する放射能の不安を解消し、食品等の安全・安心を確保するため、市では、家庭菜園等で栽培した野菜等の検査を行っています。これまでの検査体制をより拡充するため、3月1日から各庁舎および中央保健センターに新たに検査機器を設置し、5か所で開催を実施しています。

▼検査方法

採取した野菜等を洗浄し、フードプロセッサーなどでみじん切りにしたもの(1kg以上)をビニール袋に入れ、密封した状態でお持ちください。結果はその場でお知らせします。なお、スーパーや小売店などで購入した食品や、出荷自粛または制限されている食品検査の申し込みは遠慮ください。

▼検査結果の公表

検査結果は、定期的に市ホームページおよびチラシ(全戸配布)で公表します。

※検査は無料ですが事前に申し込みが必要です。各検査場所に予約してください。

●本庁舎生活環境課 ☎21111
内2162

検査は予約制です



予約先	電話番号
本庁舎(旧)休日急患センター	☎22700
表郷庁舎市民福祉課	☎322113
大信保健センター	☎462870
東庁舎市民福祉課	☎342117
中央保健センター	☎272112



予約先	電話番号
本庁舎農政課	☎21111 (内2224)
表郷庁舎事業課	☎324785
大信庁舎事業課	☎463973
東庁舎事業課	☎342115

震災から一年を迎えるにあたって

白河市東日本大震災追悼式

●日時 3月11日(日)／午後2時30分～3時30分

●会場 市立図書館多目的ホール(道場小路)

●内容 黙とう(午後2時46分) 献花、国主催追悼式の画像中継等 ※ご遺族、ご親族以外の方も参列して献花することが出来ます。なお、香典、供花、供物等はご遠慮ください。

●お願い 地震発生時刻の午後2時46分に、寺院の鐘と防災無線のサイレンが鳴らされます。犠牲となった方々のごめい福を祈り、黙とうをお願いします。

●本庁舎秘書広報課 ☎21111
内2373

キャンドルナイト～希望のあかり～

●日時 3月11日(日)／午後5時20分～6時30分

●会場 市立図書館駐車場(道場小路)

●内容 ①3千本のろうそく点火 ②キャンドルホルダーのメッセージ紹介 ③地元団体による合唱 ④黙とう ⑤市消防団ラッパ隊による追悼吹奏 ⑥復興への誓い(メッセージ発表) ⑦花火の打ち上げなど。会場ではキャンドルホルダー(ろうそくの筒)にどんなでもメッセージを書き込むことができます。また、ろうそくの点灯にご協力ください。

※午後6時30分には、県南地域で犠牲となった方々と同数の15発の花火が打ち上げられます。なお、キャンドルナイトは県内の7地域

白河仏教会主催 東日本大震災追悼法要

●日時 3月10日(土)／正午から

●会場 大統寺(馬町)

●内容 読経、焼香など

※ごなたでも参加できます。駐車場に限りがあるため、お越しの際は乗り合わせや交通機関等を利用してください。

●大統寺 ☎2723

原子力損害賠償に関して

白河地方・会津地方原子力損害賠償対策本部(本部長白河市長)の動き

2月21日、文部科学省(東京都千代田区)で、平野博文大臣に対し、1月19日に提出した「要望書」の回答と説明を求めました。平野大臣からは、賠償区域を設定した「指針」の見直しは困難であるが、東京電力に対しては、26市町村への何らかの対応を検討するよう指導するとの回答がありました。

同日、東京電力(株)(東京都千代田区)で、1月25日に提出した「要求書」に対する回答と説明を求めました。東京電力は、中間指針追補で示されたいない地域を一律に賠償の対象にすることは厳しいとの認識を示す一方、「何らかの形で対応を検討したい」との考えも示しました。

(写真は文部科学省および東京電力で意見を述べる鈴木市長)



文部科学省



東京電力

ドクターに聞く！ 最終回

Special Interview



白河厚生総合病院 放射線科部長 浦部真平 先生

「放射線」と「被ばく」についてどう考えるか(第3回)

最終回では、過去に人類が経験した放射能汚染とその被害、今後福島県民である私たちが実際に行う行動について考えてみたいと思います。

1. 過去に存在した汚染と健康被害

1960年代にかけて行われた大気内核実験により、当時は世界中の大気内に放射線物質が飛散していました。相応の内部被ばくがあったものと見られています。ただしこの内部被ばくによる発がんは、証明されていません。

1986年のチェルノブイリの原発事故では、放射性ヨード(ヨウ素)により高度に汚染された牛乳を摂取したことによる小児の甲状腺がんが増加しました。この甲状腺がんはチェルノブイリの原発事故後5年を過ぎた頃から増加しました。現在行われている県内の子供たちを対象とした甲状腺の検査は、継続的に行われることが必要です。

広島と長崎の原爆による被ばく者からは、100ミリシーベルトを超えた人の「致死がん」が有意に多いことが疫学的に証明されています。

2. 「正しく怖がる」ことの重要性

今、放射線と被ばくに関する情報は世の中にははんらんしています(この文もその一つです)。インターネットの情報の中には中学生が学者のふりをして書いているものまでありますから注意が必要です。情報源の信頼性を吟味することも重要です。

現在、空中には放射性物質は存在していません。経時的な測定により証明されています。従って換気のために家の窓を開けたり洗濯物を外に干したりしても被ばくが増すことはありません。内部被ばくを避けようとしてマスクを装着しても意味がありません。セシウムは土に吸着すると簡単には離れないので、土や砂に触れても健康に影響を与えるほどの内部被ばくを来すことはありません。ただし、冬期間の外出時にマスクを装着することは、インフルエンザの予防には意味があるかもしれませんが、手洗いは衛生上、有効です。内部被ばくを避けるには、汚染された食品を摂取しないことです。

県から発表されている空間線量率は外部被ばくの目安です。主として外部被ばくを低減するために行われているのが除染です。除染は「点」ではなく「面」で行うことが大事でしょう。あまり狭い範囲を除染しても隣から放射線が入ってきますから、外部被ばくの低減には効果が低いと思われます。学校では校庭や園庭の除染は有効と思われます。

今後は食品に含まれる放射性物質の量が容易に測ることができるようになり、ガラスバッジなどによる個人の被ばくの実測値が分かってくるでしょう。そういった正しい情報を元に「正しく怖がり」適切な対応を取ることが重要です。

3. 福島県民として、白河市民として

放射線被ばくによる健康被害で重要なものは「発がん」です。もともと日本人の3人に1人は「がん」で死亡する時代であり、がん対策は重要でしたが、今後福島県ではそれが一層強く求められることとなります。

市民の皆さんは、被ばくのリスクを下げるの他、発がんのリスクを下げることを心がけましょう。「がん」は生活習慣病としての側面も持っています。禁煙を行い(発がんのリスクの3分の1は喫煙です)、野菜(特に緑黄色野菜)を摂るよう心掛けましょう。野菜は食材として1日350グラム摂ることが目標です。また、適度な運動を行いましょう。その上で、健康診断を定期的に行うようにしましょう。

医療従事者としては、早期発見早期治療や最新の医療技術を提供することにより「がん医療」にまい進し、白河市や福島県の「がん死」を少しでも減らすよう努めたいと思います。全国平均よりも「がん死」を減らすことが目標です。

福島県の人口は原発事故以降、減少しています。今後白河市、福島県に住み続けるにあたっては、自分のいる環境を把握し自分にとってのリスクの有無と大きさを考えて、冷静に行動することが重要と考えます。